# えんだより


- 発　行　元　：ひいらぎこども園
- 発　行　日　：令和6年2月1日
- 園　　長　：中田　純子
- 連　絡　先　：0774-44-0652
- 緊急連絡先　：090-1159-0652


## 今月の予定

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 木 | 作品展 |
| 2 | 金 | 作品展 |
| 3 | 土 | 作品展 |
| 4 | 日 | |
| 5 | 月 | |
| 6 | 火 | |
| 7 | 水 | |
| 8 | 木 | |
| 9 | 金 | |
| 10 | 土 | |
| 11 | 日 | 建国記念の日 |
| 12 | 月 | 振替休日 |
| 13 | 火 | 神明小学校出前授業（年長） |
| 14 | 水 | 誕生会（年少・年中） |
| 15 | 木 | 誕生会（年長） |
| 16 | 金 | 誕生会（1歳児・2歳児） |
| 17 | 土 | |
| 18 | 日 | |
| 19 | 月 | |
| 20 | 火 | 避難訓練 |
| 21 | 水 | 交通安全教室（年長） |
| 22 | 木 | |
| 23 | 金 | 天皇誕生日 |
| 24 | 土 | |
| 25 | 日 | |
| 26 | 月 | |
| 27 | 火 | ドッジボール大会（年長） |
| 28 | 水 | |
| 29 | 木 | |
| ＊ | ＊ | |
| ＊ | ＊ | |

## 令和６年能登半島地震の支援金にご協力ありがとうございました

皆様のおかげをもちまして、25,000円の支援金が集まりました。『オールこども石川』に振り込ませていただきます。一日も早い復興を願って、皆様と一緒に応援し続けたいと思います。

| クラス | | 今月のめあて |
|---|---|---|
| 0歳児 | たんぽぽ | 1日の生活の流れが分かり、見通しを持って主体的に過ごす |
| | | 保育者や友達との関わりの中で、様々な表現でやりとりを楽しむ |
| | | 腕や指先を使って、物の扱いを楽しむ |
| 1歳児 | れんげ | 身の回りのことを、自分なりに試しながらやってみようとする |
| | | 保育者や友達と一緒に、簡単な言葉のやり取りをしながら好きな遊びを楽しむ |
| | | 本物の楽器の音色を味わい、音の違いやリズムを感じ、楽器に興味を持つ |
| 2歳児 | すみれ | 冬の自然に触れ、冬の草花や、水や氷の冷たさに興味・関心をもつ |
| | | 友達や保育者と言葉でやり取りし、イメージを広げながら表現遊びを楽しむ |
| | | 自分の発見したことを、保育者や友達に伝えようとする |
| 3歳児 | あか<br>むらさき<br>き | 寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ |
| | | 興味のあることにじっくりと取り組み、満足感を味わう |
| | | 冬の自然に触れ、自然を取り入れた遊びを楽しむ |
| 4歳児 | ピンク<br>オレンジ | 異年齢児との関わりを深めながら、親しみを持つ |
| | | 冬の自然に興味・関心を持ち、自分たちなりに調べたり試したりして楽しむ |
| | | 友達とアイデアを出し合い、イメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ |
| 5歳児 | あお<br>みどり | 友達と冬の自然現象を比較したり、調べたりしながら、興味を深め楽しむ |
| | | 友達と気持ちを一つにして、力を合わせることの喜びを感じる |
| | | 相手の気持ちを考えながら伝え、協同的に遊びを深める |

## 「いのち」について考える

保育者「このお魚知ってる？」
年長「ブリ！」
保「おっ、すごい！よく知ってたね。10kgもあるんだよ。持てる？」
長「おもたい！」
保「家でも園でも、牛や豚や鶏肉やお魚を毎日食べているね。人間って、小さなころからたくさんの命をいただいて大きくなっています。命をもらって食べること、それが生きるということなのです。」

１月11日、年長の子どもたちとブリを調理する様子を見ながら、「いのち」について考える時間を持ちました。

保「命って何だろう？」
長「しんぞうがとまったらしんでしまう」
保「このお魚、おとといまで元気に泳いでいたんだよ。」
長「なんで、いま、ここにいるの？」
保「元気に泳いでいる時に、大きな網に入ってしまったから」
長「かわいそう！」

頭が外れ、身が骨から切り取られていく間、年長さんたちは、真剣に、そして、口々に気持ちを言葉にしながら見ていました。やがて年中さんも加わって、「ははざらざらしてる」「ちがいっぱいでてる」「こわい！」「ほねもおおきい」「めはどうなってるの？」「においもすごい」

保「これが命をいただくってことなんだよ」
長「だから、『いただきます！』なんや」
保「そう。『いのちをいただきます』なの。だから、ぜーんぶありがとうの気持ちでいただくんだよ。生きているものには、全部命がある。自分の命も、友達の命もとっても大切！」
栄養士「このブリ、どうして食べたい？」
長「おすし！」

子どもたちに聞くことは、最も大切な保育の姿勢です。
翌日の年中と年長のおやつには、ブリの塩焼き握り寿司が出てきました。
みんな、元気な声で「いただきます！！！」
子どもも、保育者も、栄養士も楽しい１日となりました。

後日、Rちゃんのお母さんから嬉しいお話を聞きました。夕食にブリの塩焼きを出した時「いのち」の話を思い出した年中のRちゃんがきれいに完食し、なかなか食べなかった弟のT君に「ブリもおやさいもぜんぶ『いのち』やねんで。『いただきます』でたべなあかんねんで。」と教えてくれたそうです！！